

## ■視点1-②

### 《中期目標（指標）》 目的意識をもち、やり抜く子供の育成

〈成果指標〉 令和9年度の全国調査の標準化得点：国語107以上 算数107以上

### 《短期目標（指標）》 習得した知識や技能を活用して、問題解決を行うことができる子供の育成

〈成果指標〉 令和6年度全国学力・学習状況調査において、（県標準化得点〈県比〉国語105 算数105 以上）、

【別紙様式例1】

## ■視点5

### 【家庭・関係機関との連携】 〈取組（指標）〉

- ⑤ 家庭と連携した望ましい学習習慣の形成  
・めやす(学年×10分)の設定と  
家庭学習状況調査(学期末アンケート)
- ⑤ 外部機関や地域との連携  
・総合的な学習等における地域人材の活用(各学年1~2回)  
・ICT支援員の活用(週1回)
- ・SCやSSWとの連携(月1回)

### 〈成果（指標）〉

- ◆質問紙調査「計画を立てて勉強する」(全国比+1.0)

## ■視点2

### 【授業づくり】

〔学習への見通しをもち意欲的に課題解決を図る力の育成〕

### 〈取組（指標）〉

- ③1時間に習得させる知識や技能を明確にし、週指導計画案に毎時間分記して授業に臨む。

### 〈成果（指標）〉

- ◆授業評価アンケート（「授業の『めあて』は問題解決の見通しをもつことに役立った」3.0以上：4段階評価尺度）、◆授業チェックリスト（「課題解決に向けた見通しをもたせ、課題解決への意欲を高める工夫」3.0以上：4段階評価尺度）
- 〔考えを比較、関連付け、自分の考えを構築する力の育成〕

### 〈取組（指標）〉

- ④ねらいに応じたペアやグループでの交流活動を実施する。④自分の考えを書いたり伝えたりする等、表現する場面を位置づける。(各単元8割)

### 〈成果（指標）〉

- ◆「下広小の約束」における「②手をあげる」「③聴く」項目で8割の児童が達成する。(毎月調査)
- ◆授業チェックリスト「⑥自己の学びの変容を自覚させる工夫」3.2以上：4段階評価尺度

## ■視点4

### 【教員の意識・指導力の向上】

### 〈取組（指標）〉

- ③学力調査問題に関する研修(年2回)
- ③週案の作成と活用による教育課程経営力の育成(2週間に1回)
- ③授業マネジメント研修(毎週火曜日実施)
- ④主題研修における学び合いを重視した研究授業の実施(毎週木曜日)
- ⑥小中合同研修会の実施(年3回)

### 〈成果（指標）〉

- ◆授業評価アンケート（「タブレットパソコンや情報通信ネットワークを活用したことで、問題の解決に必要な情報を調べるなど、自分の考えを広げたり、深めたりすることができた」3.5以上：4段階評価尺度）

## ■視点3

### 【学力基盤づくり】

- 〈取組（指標）〉 ①朝のスキルタイムを週3日位置づけ複数体制による個別指導、基礎・基本及びICTスキルアップの育成を図る。
- ②教師の指導方法や児童の学び方を推進して、学力向上推進部を位置づけ、学習規律について毎月1回の全校研修し、全校児童に対して指導及び評価を行う。

- 〈成果（指標）〉 ◆「下広小の約束」における学習規律(①~③)の項目(児童アンケート8割達成) ◆スキルタイムの結果で伸びを感じる子(児童アンケート8割以上) ◆子供が自己他者肯定感検査(年間2回・肯定的回答8割)

## ■視点1-①

### 県学力調査、全国学力調査及び「授業評価アンケート」、「授業チェックリスト」等から見た「課題」

四分位層の県との差、標準化得点	国語					算数・数学				
	A層	B層	C層	D層	標準化得点	A層	B層	C層	D層	標準化得点
R5県調査	-17.8	-6.5	20.0	4.3	112.2	-19.1	-7.6	12.7	14.0	112.4
R6全国調査(県100)	この部分は、7月末以降に県教育委員会が示す、福岡県の学力層(四分位層)の割合をもとに、各学校が記入。県100の算出方法は県教育委員会からの文書を参照すること。									
課題	・非認知的能力の中でも、特に自己肯定感や、向上心、忍耐力に課題がある。 ・質問紙調査において、「計画を立てて勉強している」23.7%(全国比-3.8%)。 ・授業チェックリスト「⑥自己の学びの変容を自覚させる工夫」2.7:4段階評価尺度。・授業チェックリスト「⑧コンピュータや情報ネットワークを活用した学習」3.0:4段階評価尺度。									
授業づくりや学力向上の取組に係る「要因」	①C・D層に基礎・基本を定着させるための時間の確保や指導方法の工夫が十分ではない。②問題解決的な学習を進めていく学び方や、話す・聞く・伝え合うといった学習規律を身に付けさせる指導が十分ではない。③授業のねらいを明確化することや、学習を振り返り、知識・技能や思考力・判断力・表現力の伸びを実感させられていない。④指導形態の工夫や、交流の視点を明確にした授業の工夫が不十分。⑤家庭学習の充実や関係機関との連携が不十分。⑥小中が連携した指導方法の工夫が不十分。									

現状値 令和5年度福岡県学力調査の学力層(令和5年度の小学校5年生)

市町村名	学校名	国語					算数					児童数
		A層 18問～ 11問	B層 10問～ 8問	C層 7問～6 問	D層 5問～0 問	標準化 得点	A層 19問～ 12問	B層 11問～ 9問	C層 8問～6 問	D層 5問～0問	標準化 得点	
広川町	下広川小学校	15	17	5	5	112.2	17	9	12	4	112.4	42

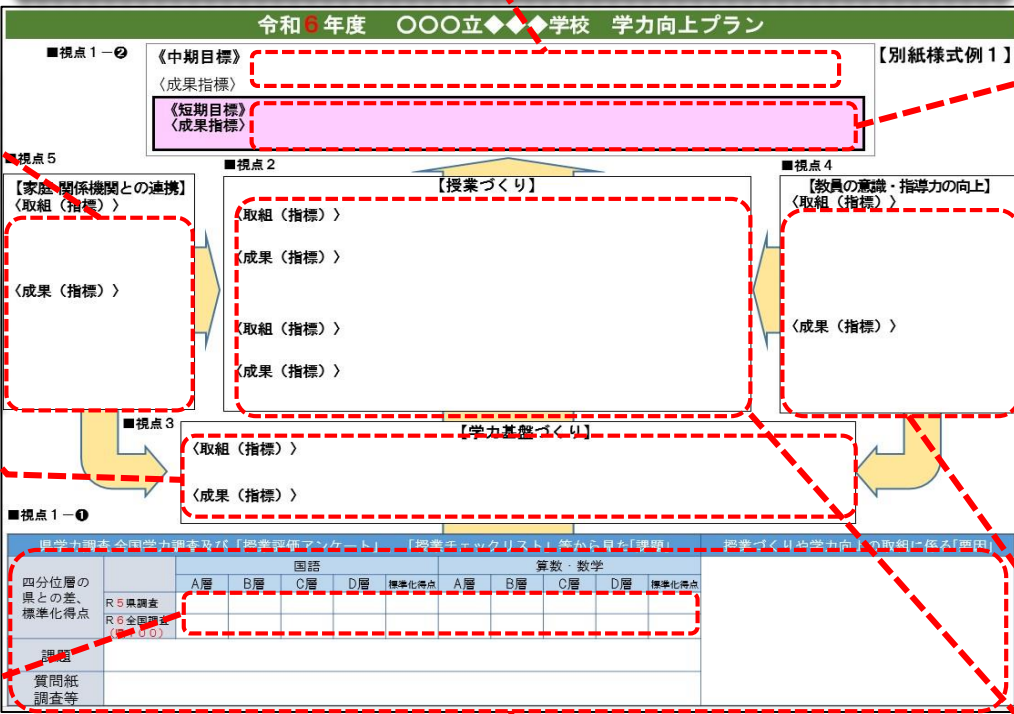
**【視点1-②：中期目標】**  
 各学校で、概ね3年後にどのような学力を児童生徒に付けるか、目標を成果指標として設定すること。

**【視点1-②：短期成果指標】**  
 中期目標の達成する過程で、1年後にどのような学力をどこまで付けるか、着実に実現すべき目標と成果指標を設定すること。

**【視点5】**  
 視点2、3を充実するための学校と家庭と関係機関とが連携する具体的な取組と成果指標をそれぞれ示すこと。

**【視点3】**  
 視点1-①を踏まえ、児童生徒の学力の基礎を培うための取組と成果指標をそれぞれ示すこと。

**【視点1-①】**  
 ・ R5県学力調査の小5、中2、R6全国学力・学習状況調査小6、中3における、学力層（四分位層）の各層の県との差を示すこと。なお、その際は、（令和5年12月22日 5教義第1728号）で算出された数値を活用すること。  
 ・ R5県学力調査の小5、中2（県100）、R6全国学力・学習状況調査小6、中3（県100）における、標準化得点を示すこと。  
 ※R6全国学力・学習状況調査に関する数値は、7月末以降に県教育委員会が示す、福岡県の学力層（四分位層）の割合をもとに、各学校が記入する。



※【視点1-①】、【視点1-②】に、学力調査結果に関する数値を記入する際、「令和6年度全国学力・学習状況調査における目標値について（令和5年12月22日 5教義第1728号）」の様式1（小学校用）、様式2（中学校用）に各学校が示した値を挿入する。

**【視点4】**  
 視点2、3の徹底、充実に向けた教員の意識・指導力向上の取組と成果指標をそれぞれ示すこと。

**【視点1-①】**  
 ・ 小問別の正答率や誤答の状況等をもとに児童生徒の学力の実態を分析し、その課題と要因を明らかにすること。  
 ・ 学力層（四分位）に着目した課題とその要因分析等を行うこと。  
 ・ 全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査結果や児童生徒アンケート等の結果をもとに、学びに向かう力（「学びを調整する力」「粘り強く挑む力」）や人間性等（「自己有用感・自己効力感」「向社会的性」）について分析し、その課題と要因を明らかにすること。  
 ・ 全国学力・学習状況調査学校・生徒質問紙調査結果、児童生徒による評価「授業評価アンケート」や教師による評価「授業チェックリスト」等の結果を分析し、教員の学習指導の課題を明らかにすること。

**【視点2】**  
 ・ 視点1-①を踏まえ、各学校の教育課題解決に向けて、全職員による重点的な取組と成果指標をそれぞれ示すこと。  
 ・ 学校全体（全教科）で必ず実施する取組にしぼりこみ、徹底して取り組む内容を示すこと。

**学力向上プラン作成及び活用における留意点**  
 (1) 具体的な取組と成果指標の策定 (2) 視点1-①の「要因」と、視点2・3・4・5の「取組(指標)」との対応 (3) 視点2・3・4・5について短いスパンでの検証・改善  
 (4) 取組の成果・課題の共有 (5) 1年間を見通した年間スケジュール(「参考資料「学力向上検証改善ロードマップ」)を基にしたPDCAの全職員による実施

# 令和6年度 広川町立下広川小学校 学力向上プランを基にした検証改善ロードマップ

視点・目標等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全国・県 学力調査等	全国学力・ 学習状況調 査 (6年生)		福岡県 学力調査 (5年生)						標準学力 調査(全) チャレンジ テスト(4年生)			
〈視点2〉 ○習得させる知識・ 技能の明確化  ○ねらいに応じた ペアやグループで の交流活動  ○ICT(タブレット) を活用した比較・ 関連付けした学習 の工夫	本時習得させる知識・技能の具体を週案に明記						知識・技能の具体を週案に明記					
	整合性のある「めあて」と「まとめ」を板書						ねらいに応じたペア学習					
	操作活動や表現活動により自力解決を図り 自分の考えをつくる						ペアでの交流活動の質の向上					
	タブレットを使ったスキルアップ						ICTを活用した教科指導の充実					
	・6年の学力 向上にあたる	・5年の学力 向上にあたる				学期末 テストに よる評価	結果の共有 リスト 授業チエック				学期末 テストに よる評価	結果の共有 リスト 授業チエック
〈視点3〉 ○全校朝礼にお ける学び方の指 導	毎月の全校朝礼で計画的に指導 全職員で共通理解						毎月の全校朝礼で計画的に指導 朝の会で確認→帰りの会で評価					
	<b>下広小の約束(5箇条)→全校児童 毎月調査→全校朝礼で評価→1ヶ月の目標設定</b>											
〈視点4〉 ○授業マネジ メント研修 ○研究授業	・基本的な学習過程 ・前期期の単元の確認・調整 ・家庭訪問	・全国学力・学習状況調査 自校採点	・算数科・国語科における提 案授業 ・興学力テスト自校採点 ・児童の実態把握 ・全国学力テスト自校採点結 果分析	・県学力テスト自校採点結果 分析		・研究構想提案授業 ・学期末テストの結果分析 ・学校訪問の計画	・授業研究 ・後期単元の確認・調整	・授業研究 ・基礎学力の定着のさせ方 ・授業における比較のさせ方	・授業研究		・来年度の研究構想作成 ・学力テストの結果分析	・来年度に向けたカリキュ ラムの修正 ・児童の実態把握 (次年度への申し送り)
〈視点5〉 ○家庭と連携し た取組  ○外部機関や地 域との連携	・学級懇談会 ・家庭訪問 ・学校新聞及びホームページによるいじめ防止基本方針の周知	・学校運営協議会	・いじめ、不登校アンケート (保護者)		・学級懇談会 ・学校訪問に向けて		・いじめ、不登校アンケート (保護者)	・学級懇談会 ・PTA教育講演会	・学級懇談会	・学校運営協議会 いじめ、不登校アンケート (保護者)	・学級懇談会	